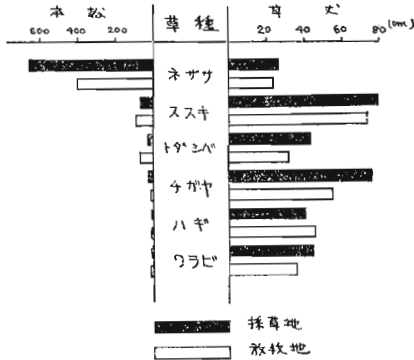


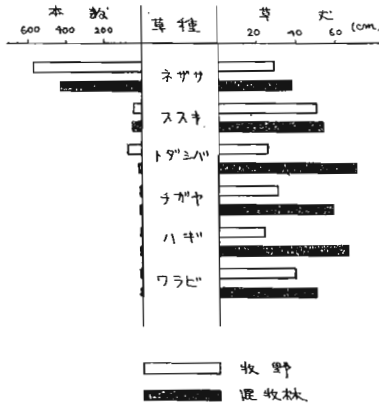


第3図 採草地、放牧地の草種別本数及び草丈

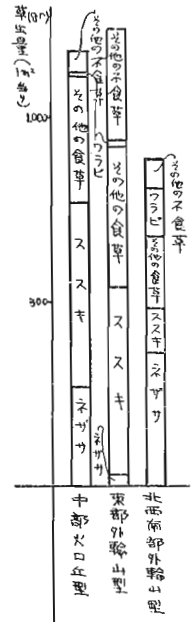


註 カルカヤ、アブラススキは微量につき省略。

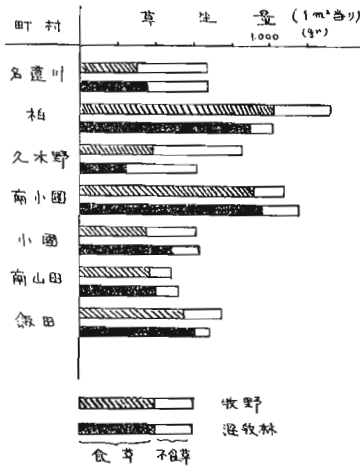
第5図 牧野及び混牧林の草種別本数及び草丈



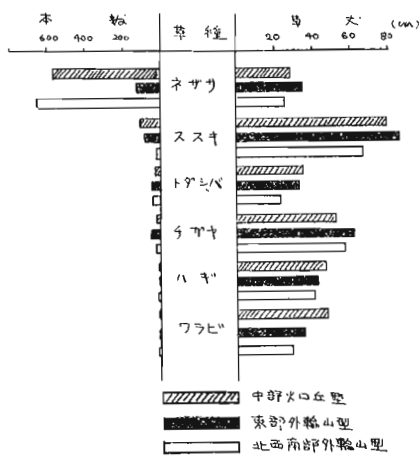
第6図 土壤型による草生量



第4図 牧野及び混牧林草生量



第7図 土壤型による草種別本数及び草丈



草全体では採草地の方がやゝ多いにすぎないが、食草、不食草別にみると、食草は採草地の方がはるかに多い、これは放牧地にはワラビが多いためである。

混牧林は牧野にくらべると、その草生量、草丈共に

大きい。これは庇蔭効果のためと思われる。なお久木野、柏両村では、草生量は逆の結果を示しているが、前者は林内放牧のため、後者は牧野にススキが多いためである。

## 10. クヌギ混牧林の樹冠と樹幹との関係 (第4報)

九大農学部 井上 由扶・椎葉 俣嗣

混牧林は立木状態が疎であつて林木は自由に枝条を伸長し、樹種固有の樹冠形を呈するため、樹冠占領面積はその胸高直径、樹高、幹材積との間に高度の相関が認められる。従つてこれらの関係を明かにすることにより、林木の胸高直径を測定すれば疎密度が算定され、また航空写真より直径、樹高、材積を推定するこ

とも可能と考えられる。このような目的を以て、各令階のクヌギ混牧林より正常な樹冠形のクヌギを選び、樹冠半径を4方位測定して平均直径を求め、樹冠投影を円形とみなしてその面積を測定した。樹冠は1本立、2本立、3本立の胸高直径はそれぞれ2本および3本の平均値であらわす。調査数は1本立363株、2本立